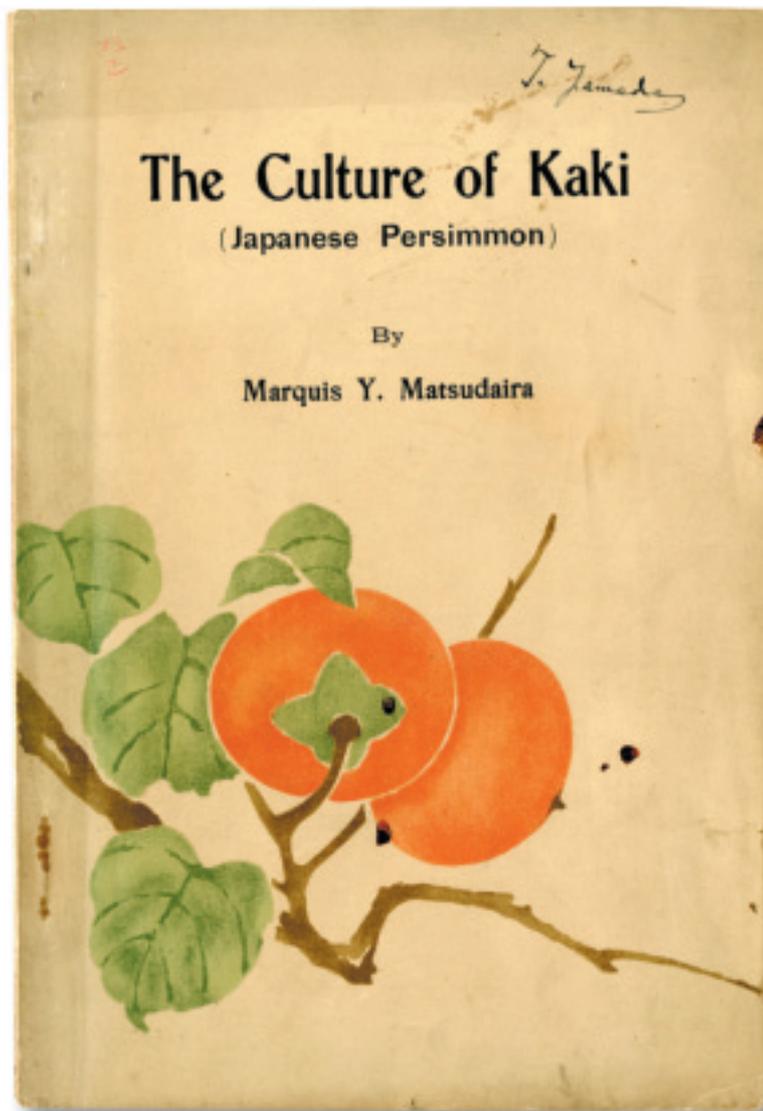


文書館だより

Fukui Prefectural Archives



▲日英博覧会に出品された『The Culture of Kaki』(1910年) 当館蔵(40005870)

第14号目次

特集 和算にチャレンジ	2
資料紹介	4
ちょっと昔の福井県	5
普及啓発活動紹介	6
お知らせ	8

第14号
2009.10
福井県文書館

江戸時代の和算にチャレンジ

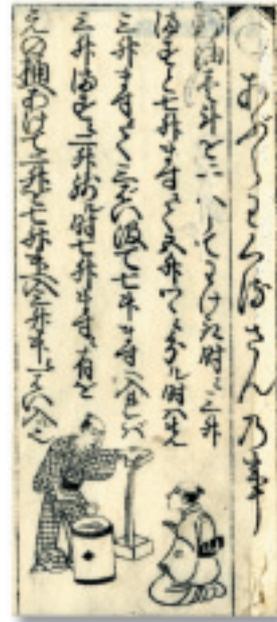
文書館収蔵資料展示「読んで脳活－文書館で謎解き－」から、和算の問題を紹介します。

問題

油1斗(10升)を3升ますと7升ますを使って、5升ずつにわけるとはどうしたらよいでしょうか。

あぶらわくるさんの事

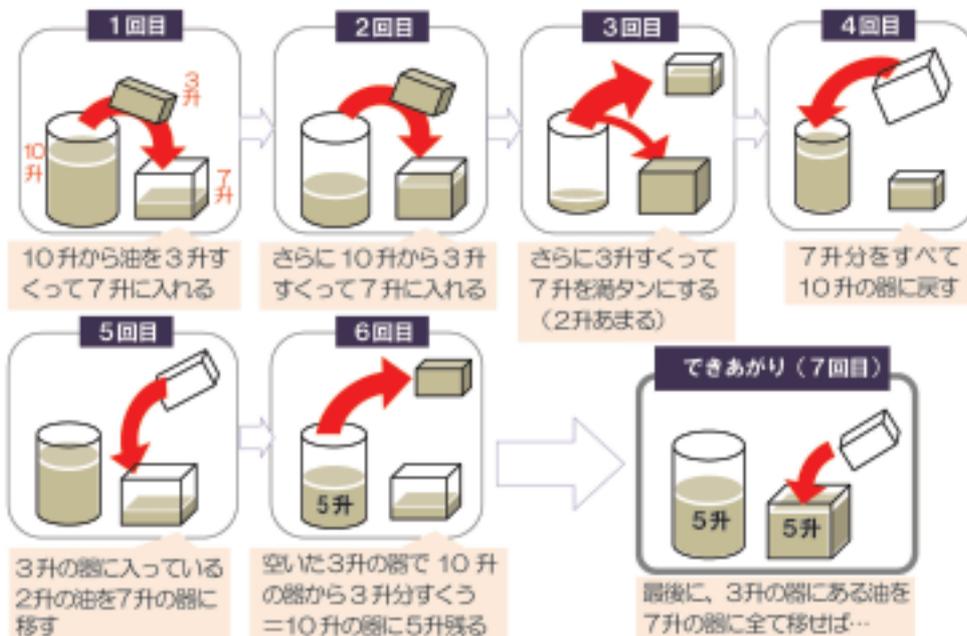
○油壺斗を二人してわけ取時ニ、三升ますと七升ますにて五升ツ、二分ル時ハ、先三升ますにて三ばい汲て七升ますへ入れバ三升ますニ二升残ル時、七升ますニ有をもと元の桶へあけて二升を七升へ入、三升升二一はい入ル也



▲『算法指南車』桜井市兵衛家文書 (当館蔵N0055-00932)

解説

1斗(10升)の油を、7升・3升の枡のみ用いて5升ずつに分けるには、最低でも7回の手順が必要となります。以下はその解答例です。これを参考に考えてみましょう。



問題

正月に、あるねずみの夫婦が、子を12匹生みます。2月にまた、親と子がそれぞれ12匹ずつ生むと、親と子とその子を合わせて98匹になります。このように、月に1度ずつ、月々に12匹ずつ生むと、12月には何匹に増えているでしょうか。

○ 正月に鼠父母出て
子を十二疋うむ 親共に
十四疋二成 此鼠二月二ハ
子も又子を十二疋ツ、産
ゆへニ 親共ニ九十八疋二成
かくのごとく月二一度
ツ、親も子も又
まごもひこも月々に
十二ひきヅ、うむ時二十二月
にハなにほどになるぞといふ



▲『算法指南車』桜井市兵衛家文書 (当館蔵N0055-00932)

解説

もとのねずみの数…2匹
1組の夫婦から12匹の子ども



月	親の数	夫婦の組	生まれる子ども
1	2匹	1組	1×12匹
2	14匹	7組	7×12匹
3	98匹	49組	49×12匹
4	686匹	343組	343×12匹
	?	?	?
12	3,954,653,486匹	1,977,326,743組	1,977,326,743×12匹
n	$2 \times 7^{n-1}$ 匹	7^{n-1} 組	$7^{n-1} \times 12$ 匹

～ここでワンポイントレッスン～

n月の数 $2 \times 7^{n-1} + 7^{n-1} \times 12$
 $= 7^{n-1} (2 + 12) = 7^{n-1} \times 14$
 $= 7^{n-1} \times (7^1 \times 2) = 7^{n-1} \times 7^1 \times 2$
 $= 2 \times 7^{(n-1)+1} = 2 \times 7^n$
 n月のねずみの数は、 2×7^n 匹と表せます
 よって12月のねずみの総数は…
 $2 \times 7^{12} = 27,682,574,402$ 匹
 (276億8257万4402匹)

【文書館からの挑戦状】

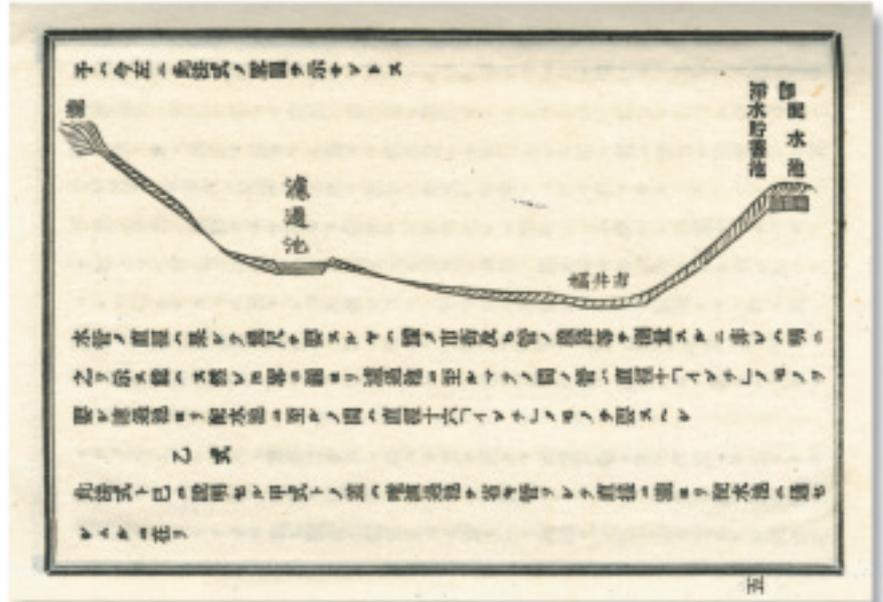
ねずみの体長を約5cmとすると、12月に生まれたねずみの体長の合計は福井と[]を約2往復できる距離になります。
 ① 敦賀 ② 東京 ③ アメリカ ④ 月

【答え】 ④ 月

月と地球の間は約38万kmで、なんと、その間を約2往復できます。

◆◆ 資料紹介 ◆◆

バルトン氏 福井市衛生情況調査報告



▲「農事ニ関スル参考書類」当館蔵(40005603)

この資料の作成者ダブルユー、ケイ、バルトンは、1856年スコットランドのエジンバラ生まれ。明治20年(1887)日本政府の招へいにより来日し、帝国大学教授に就任する傍ら、内務省衛生局の顧問技師を兼任して日本各地の上下水道の調査および設計に従事し、“日本の上下水道、衛生工学の父”と呼ばれました。

バルトン氏が明治27年福井に来て調査をしたことは、『福井市史 通史編3近現代』P.325にも触れられており、地元新聞「福井」で翌28年4月14日から5回にわたり「福井市水道敷設々計に関するバルトン氏の報告」という題で連載されました(以下、「福井」報告とします。)。その冒頭には「曩に本県知事の囑託に応じ福井市水道敷設々計取調の為め来県したる内務省雇ダブルユー、ケイ、バルトン氏の報告書を県報にて公けにせられたれば左に之を転載す」と記してあります。今回紹介する調査報告は、この「福井」報告とほぼ同文の印刷物なのですが、その違いとして2点あげられます。

1点目は、「福井」報告では、読者のために漢字にルビが沢山付けられていますが、今回の調査報告には一般的な漢字にルビはなく、逆に外国語の専門用語を日本語に翻訳した場合、「濾過法」のように、漢字に外国語の発音を表わすルビを付けていることです。

2点目は、「福井」報告では省略された図面2つが今回の調査報告には掲載されていることです。一つは一乗滝から、もう一つは足羽川から沈(沈)澄池、濾過池、足羽山の配水池浄水貯蓄池を経て福井市街へ圧送する方法で、それぞれ断面図を略図で示しています。

福井市で上水道が整備されたのは大正期に入ってからのこと。足羽山麓には福井市水道記念館(旧足羽揚水ポンプ場)が現存しています(国登録文化財)。取水方法は今回の調査報告とは異なりますが、足羽山の配水池に揚水して市街地に供給するという考え方は共通しています。お雇い外国人による調査の成果が何らかの形で影響を与えていたのではないのでしょうか。

◆◆ 所蔵写真紹介 ◆◆

ちょっと昔の福井県 ～越前市編～ 所蔵写真の一部を紹介します。



町用水の残る市街地 1964年(昭和39)

町用水は、市民の生活用水として広く利用されていました。しかし、交通量の増大により、昭和40年から暗きょ化されました。



花筐かきょう小学校での移動県庁 1964年(昭和39)

移動県庁は住民の方々のご意見やご要望を県政に反映するために昭和34年から行われていました。



村国山より市街地を望む 1967年(昭和42)

村国山は標高238.9mあり、古くは帆山と呼ばれました。芦山公園が整備されており、展望台からの眺めは素晴らしいものです。



ループ式立体交差 1967年(昭和42)

ループ式の立体交差は、全長400mあり、北陸線をひとまたぎする当時全国でも数少ないもので、交通緩和に大きな役割を果たしました。

マイクロフィルムのデジタル化 文書館の仕事を紹介します。

福井県史を編さんする際に、県内外に残る貴重な資料が調査されました。当館は、このとき撮影されたマイクロフィルム約8,800本を所蔵しています。現在、みなさまに広く利用していただけるようにマイクロフィルムのデジタル化をすすめています。

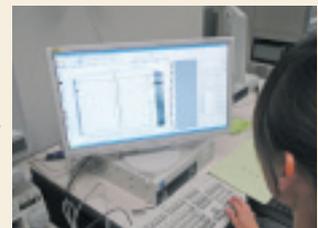
■ 作業のようす



デジタル化を待つマイクロフィルム



マイクロフィルムを1コマずつ読み込んでいきます。



デジタル化したデータを確認します。

◆◆ 活動報告 ◆◆

文書館の普及啓発活動を紹介します。

文書館は、子どもから大人まで、みなさまに親しまれるよう積極的に普及啓発活動を行っております。学校行事や地域での活動などで、ぜひ文書館をご利用ください。

6月

小学校の児童と保護者が 文書館訪問

小学校の児童と保護者のみなさんが、文書館の仕事や役割について学びました。



フクリュウくんが 文書館に出現

恐竜エキスポふくい2000で活躍し、その後文書館に移管されたフクリュウくんが、園児たちの前に姿を現し、文書館を紹介しました。



7・8月

夏休み郷土新聞づくり

文書館では、夏休みに「こどもウィーク」を設け、こどもたちの夏休みの自由研究のひとつである郷土新聞づくりの支援を行っています。今年は、初の試みとして中学生を対象に出張相談会とポイント講座が行われました。特に、ポイント講座では、郷土新聞づくりをどのように進めていくか、文書館職員・中学校社会科教員・新聞記者がそれぞれの観点で詳しい解説を行いました。



郷土新聞出張相談会
(若狭図書学習センター)



郷土新聞づくりポイント講座
(県立図書館多目的ホール)

文書館・図書館 まるごと探検隊

夏休みに普段は見るできない文書館や図書館の施設を見学しました。



普段は立ち入り禁止のくんじょう室にも入ることができたよ



書庫の棚には古文書の複製本がびっしり



教科書にも出てくる『解体新書』こんな近くで見ることができたね



県内の中学校に配布した文書館新聞



中学生の制作した郷土新聞「谷野一柏新聞」

9月



巡回展示「ちょっと昔の福井～越前市編」

文書館の初の試みとして、県立武生高等学校の学校祭で巡回展示を開催。明治から昭和のなつかしい写真や新聞記事のパネルを展示し、生徒や教職員だけでなく、見学に来られた地域の方々など多くの方に楽しんでいただきました。



講座・講演会

県史講座 「時代小説の舞台裏」

平成21年5月17日(日)
講師：築山桂氏(作家)

NHK土曜時代劇の原作者としても著名な福井市在住の作家・築山桂氏をお招きし、時代小説を執筆するうえでの資料の使い方など、貴重なお話をいただきました。



資料保存研修会

平成21年6月17日(水)
講師：(財)元興寺文化財研究所
金山正子氏

繕いや和とじなどの簡単な修復方法を学びました。



古文書入門講座

平成21年6月20日(土)、27日(土)、7月4日(土)
講師：文書館職員

3回シリーズで入門講座を開催。



お知らせ

展示・講座のご案内

企画展「すごろく展」

平成21年11月27日(金)～平成22年1月27日(水)
会場：文書館閲覧室

古文書入門講座

平成21年11月 7日(土) 13:30～15:30
平成21年11月14日(土) 13:30～15:30
平成21年11月21日(土) 13:30～15:30
定員：40名(要申込) 無料
講師：文書館職員 会場：文書館研修室
※春に実施した内容で再度開催。
問い合わせ・申込みは文書館まで。

県史講座

平成22年2月7日(日) 13:30～15:30
「発掘からみた福井藩士の生活(仮)」
講師：河村健史氏(埋蔵文化財調査センター)
会場：図書館多目的ホール

講演会

平成22年2月21日(日) 13:30～15:30
「幕末の福井藩(仮)」
講師：佐々木克氏(奈良大学文学部教授)
会場：図書館多目的ホール
※県史講座、講演会は申込み不要です。

ご利用案内

- 開館時間
午前9時から午後5時まで
- 休館日
月曜日(休日は除く)
休日の翌日(土、日、休日は除く)
文書等点検期間(年間10日以内)
年末年始(12月28日～1月4日)
清掃整理日(12月以外の第4木曜日、休日の場合は翌日)

フレンドリーバス(無料)をご利用ください。



Cover Photo Story

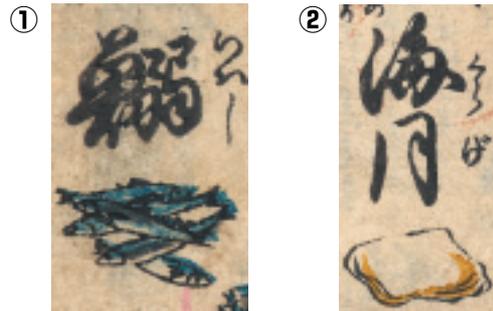
表紙写真：『The Culture of Kaki』
当館蔵(40005870)

1910年(明治43)に日英同盟8周年を記念した日英博覧会が、ロンドンにおいて開催されました。最後の福井藩主松平茂昭の子であり、旧福井城址に松平試農場を創設した松平康荘による柿の栽培についての英文論文『The Culture of Kaki(柿の栽培)』が出品され、名誉賞を受賞しました。序章には、松平康荘がイギリス留学中、同国に柿の木がないことを知り、イギリスに紹介するために、柿の栽培をテーマに選んだとあります。



古文書にチャレンジ

何と読むでしょうか。(解答は下)



編集後記

たより第14号をお届けします。今号では、江戸時代の和算を特集しました。今後も文書館に親しみをもっていただくためにさまざまな取り組みを行っていきます。

文書館だより Fukui Prefectural Archives 第14号

平成21年10月31日発行
編集・発行／福井県文書館
〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891
ホームページアドレス <http://www.archives.pref.fukui.jp>
電子メールアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp



健康長寿の福井